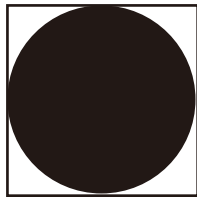


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 161

2021. 4

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-30-14 文京ビル 206 号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 大坪圭輔

ニュース担当 北川智久・佐藤仁美

E-mail: info@insea-in-japan.or.jp

“くつつくいきもの”

公益社団法人 日本美術教育連合理事 西村徳行

研究会の講師等で学校に呼ばれた時、楽しみにしていることがある。それは下校する子どもたちの行動をみたり、話し声に耳を傾けたりすることである。友達といっしょに他愛もないことを話したり、じゃれ合ったりする子どもたちの姿は、まるで体全体で「生きる喜び」を表しているようである。見ただけでこちらも楽しくなる。昨年は多くの研究会が中止となった。コロナ禍の状況を考えると致し方ないことだが、研究会に向けてご準備なされた先生方のことを考えると、いたたまれない気持ちになる。それでも研究を止めるなど、オンラインで実施するところや、また細心の注意を払いながら対面で授業するところもあった。ある学校に伺った時、子どもたちはみなマスクをつけて、黙々と下校していた。一年前には考えられない光景である。入口で手をアルコール消毒し、検温して校内に入ると、全員が黒板の方を向いて一言もしゃべらずに給食を食べていた。これまでと同じような光景でありながら、学内の至る所が新しい生活へと変わっていた。図工室の机の上はアクリル板で間仕切りされ、アルコールできれいに消毒されている。先生方の日々のご苦勞を痛感した。そんな中、図工の授業がはじまった。授業は砂を使った「造形遊び」である。指導案が送られてきたときからドキドキしていたのだが、そのドキドキは見事に的中した。緊張していた子どもたちも活動が始まると活発に動きはじめる。そして様々な活動が展開され、あれよあれよという間に子どもたちは「密」の状態になる。一年前には感じなかった感覚がそこにはあった。しかし子どもたちがいっしょにつくりながら、友達と楽しく話し合う姿は、これまでと何も変わらない。図画工作科の授業では、子どもたちの素の姿を引き出すことが大切である。だからしゃべりたくなるし、いっしょにいたくなる。「密」の状態にある子どもたちにすこし離れるよう声掛けをしながら、授業者の先生が「子どもは“くつつくいきもの”ですから」と、困ったような嬉しいような表情で私に話しかけて下さった。その言葉に、共感を覚えた。子どもたちがくつつきたい気持ちを遠慮せず、存分に活動できる日が来ることを願ってやまない。

■令和3（2021）年度第11回定時総会 招集通知

下記の要領で定時総会を開催いたしますので、会員の皆様はご出席のほどをお願いします。詳細は、事務局便りのページをご覧ください。

☐ 日 時 令和3（2021）年5月16日（日）13：00－13：50

☐ 場 所 Zoomオンライン

☐ 議 案 ①令和2（2020）年度事業報告 ②令和2（2020）年度決算 ③報告事項

☐ 出 欠 ご欠席の場合は、委任状を必ずご送付ください。

☐ 公益法人認定10周年記念シンポジウム2021 14：00－16：30 Zoomオンライン

第1部 「日本美術教育連合の公益社団法人化の意義」

第2部 「日本美術教育連合のこれから」

令和2（2020）年度 研究局

■第54回日本美術教育研究発表会開催 についてのご報告

研究局担当理事 結 城 孝 雄

日 時 令和2（2020）年10月11日（日）9：00－17：00

場 所 Zoomオンライン

形 式 リアルタイム配信

発表件数 27件 参加者 72名

後 援 文化庁

■概要

- ①昨年は、台風接近のために、連合設立以来、初めての研究発表会が中止となり、迎えた本年はコロナ状況下での2年連続の休止は絶対回避すべく、オンラインでの開催実施を念頭に準備を行いました。
- ②連合ニュース159号(2020. 7)に「第54回日本美術教育研究発表会2020一次案内」、および160号(2020. 9)に「第54号日本美術教育研究論集2020【投稿および掲載要項】」、「入会申込書（学生・一般）」、「研究発表申込方法」を、最終案内と研究発表時間割を掲載しました。
- ③初めてのオンランによる研究発表会実施に向けて、連合運営委員のご尽力で、発表者・運営者・司会者のリハーサルを実施、課題を共有することができた。さらに今回より、オンラインからの参加費決済が可能となり、連合のスマート化が進みました。また、美術教育が文科省から移管された文化庁の後援も実現しました。
- ④当日は、大きな支障、発表停止もなく、順調にすべての予定された発表が予定通り行われました。
- ⑤準備運営にかかわっていただきました研究局各位、運営に携わっていただきました連合運営委員各位、エントリーされました発表者、参加者の皆様に厚く御礼申し上げます。



■公益社団法人 日本美術教育連合 第54回日本美術教育研究発表会 2020 発表内容一覧

9:00 9:15 移動 9:30	開会式 E会場				
	会場A (理論等)	会場B(実践小)	会場C(実践中高大)	会場D(特支/幼)	会場E(海外/ICT)
9:30 9:55	A-1 芸術実践を契機とする コミュニケーション的行為 の様相 東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科 清家颯	B-1 図画工作科の木版製作に おける彫刻刀の安全指導 についての考察 八王子市立 宇津木台小学校 戸室 鉄平	C-1	D-1 ワークショップを通した 親の関わりについての 一考察 ー親子ワークショップにおける 親を対象とした質問紙 調査からー 高崎商科大学短期大学部 前沢 知子	E-1 レゾ・エミリア教育を 社会的な ART として 考察する 東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科 森井圭
10:10 10:35	A-2 主要視覚教育メディア としての教育掛図 ー戦前期日本教育掛図の 基礎研究序説ー 東京都立大学 長田 謙一	B-2 性的マイノリティについて 知るための図画工作科の 授業実践とその成果 折り紙文化の芸術として 群馬大学共同教育学部 附属小学校 大塚裕貴		D-2 幼児が粘土に触れ合う 手の使い方から手で くツクル>ことへの意味 連関を考察する 鶴見大学短期大学部 鮫島良一	E-2 「居場所」の造形活動を めぐる自他の境界について ーa/r/tographyを用いた 日本・チェコ共和国間の交 流授業を通してー 兵庫教育大学大学院 連合学校教育学研究科 家崎萌
10:35 10:55	休憩 (20分)				
10:55 11:20	A-3 西野範夫による 「造形遊び」の提唱を 支えた思想的基盤について 東海大学短期大学部 佐藤絵里子	B-3 造形教育における オンライン授業の問題点と 解決の方向性について ー異年齢による リアルタイム方式の オンライン実践をとおしてー 登米市立北方小学校 宮崎 敏明	C-3 ふるさと熊本アートプロジ ェクト 2019「星あかり 七夕 夢美術館 Beyond The Southern Cross」 復興支援・国際交流を 通した授業開発と実践 ー地域社会を拓く経験的な イメージと対話的な学修の 可能性を探るー 熊本大学 赤木恭子	D-3 発達障がいがある幼児の 積み木遊びについて 群馬大学 大学院 教育学研究科 石原加奈子	E-3 美術科教育の視座から 検討する STEAM 教育の 趨勢 東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科 畑山 未央
11:35 12:00	A-4 戦後の美術教科書に おける掲載作品の研究 (21) ー1956～2021 年度美術科 教科書掲載の美術史年表 における海外美術作品に 関する考察ー 元 宇都宮大学 山口 喜雄	B-4 図画工作科における 創造活動を通した 「造形的な視点」の研究Ⅳ ー人間らしい学習の あり方についてー 東京学芸大学 西村徳行	C-4 芸術は可能か？ 再考 ー今日における「美術教育」 「感性の生み出し方」の 実践からー 奈良市立一条高等学校 佐藤隼	D-4 木育実践共同体の構築 ー大学教員と付属幼稚園 教員の協働に基づいてー 東洋英和女学院大学 三上慧	E-4 アートによる当事者研究の 試み:《アイムヒア プロジ ェクト 渡辺篤》が開く 可能性 東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科 細野 泰久
12:00 13:30	論文投稿者説明会 12:20ー12:50	昼食(12:00ー13:30)			
13:30 13:55	A-6 折り紙文化の芸術として の発展 ー吉澤章が現代 折り紙に与えた影響ー 東洋大学大学院 文学研究科 松浦英子	B-5 情動が媒介となる 造形遊びの事例研究Ⅱ 守屋 建	C-5 中学校美術科と国語科等 の教科融合型学習の研究 (4):2 年生におけるパフ ーマンス課題「津久見“美” 事典」の取り組み 大分大学 藤井 康子	D-5 美術表現における遊び的 アプローチの考察 ー遊戯論を踏まえてー 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 佐藤 仁美	E-5 松原郁二の「A-R 型創造」 理論と発想・構想論 東京学芸大学 山田 一美
14:10 14:35	A-7 造形教育の今日的意義 東京学芸大学 附属竹早中学校 杉坂 洋嗣		C-6 表現教科としての役割を 大事にした、小中学生対象 リモート授業実践報告 学校法人聖ステパノ学園 小学校/中学校 金阿彌勉	D-6 知的障害児の描画の発達 を促す指導について 埼玉県立春日部 特別支援学校 小野 恵	E-5 美術科教育課程における 核心概念:TETAC 及び韓 国の教育課程におけるビ ック・アイディア概念を 中心に 柳芝英
15:15	閉会式 15:30 閉会				

令和2（2020）年度 日本美術教育連合

■「造形・美術教育力養成講座」第6期活動報告

事業局運営委員 三 澤 一 実

2020年、人類に降りかかってきたコロナウイルス感染症は、私たちに、美術を介してのコミュニケーションの仕方や美術館などへの接続の機会について再点検を求めてきました。その様な中、今年度の「造形・美術教育力養成講座」では様々な障壁により美術にアクセスできない人々を、どの様に美術に接続させることができるかを改めて考えてみることをテーマにしました。そして前年度の趣旨「越境し、拡張する美術」を引き継ぎ、「越境し、拡張する美術／美術教育へのアクセシビリティを再考する」のテーマのもと、コロナウイルス対策を踏まえたオンラインによる4つの講座を開催しました。

4回の講座には延べ131名（会員34名、学生院生20名、一般77名）の事前申し込みがあり、そのうち108名がオンライン講座に参加しました。全体の4／3以上の出席者4名の内、修了認定書を申請した2名には認定書を送り表彰しました。

■第1回講座「アートへのアクセシビリティ再考—#おうちでポーラ美術館の取り組みから」



- (1) 日時：2020年9月26日（土）13：30～15：00
- (2) 内容／参加者数：講演とワークショップ／27名（欠席者9名）
- (3) 講師：東海林洋（ポーラ美術館学芸員）
- (4) 概要報告：これまでにオンラインコンテンツを充実させてきたポーラ美術館では、コロナ禍で直接美術館へ足を運ぶことが困難な状況下において「アート体験を止めない場」として「#おうちでポーラ美術館」が取り組まれています。講座前半では、同美術館の立地が常に「アクセシビリティ」の課題を包含していることへの言及からはじまり、それらの問題意識から充実させてきたオンラインコンテンツを再編集して提案することの意義やその内容について紹介されました。後半は、「美術館の内外をつなぐ」をキーワードに、ポーラ美術館の施設・作品・展示を活用したコンテンツ開発のワークショップが実施されました。

■第2回講座「新しい授業参加を創造するデザイン」



- (1) 日時：2020年11月21日（土）13：30～15：00
- (2) 内容／参加者数：講演とワークショップ／11名（欠席2名）
- (3) 講師：桐山岳寛（大同大学）
- (4) 概要報告：インフォメーションデザインを専門とする桐山岳寛氏（大同大学）を講師として迎え、学習者を主体的に参加させる際に重要となる情報伝達のデザインについての講義。リモート授業やオンライン学習も考慮しつつ、如何に効果的に伝達するかそのノウハウをスライドで提示し、その後、新しい授業参加を創造するデザインについて参加者が考えるワークショップをブレイクアウトセッションとして実施しました。

■第3回講座「ロボットやWebを用いた新しい鑑賞教育のデザイン」



- (1) 日時：2021年1月9日（土）13：30～15：00
- (2) 内容／参加者数：講演／33名（欠席7名）
- (3) 講師：鈴木メイザ（株式会社オリイ研究所）、一條彰子（東京国立近代美術館学芸員）
- (4) 概要報告：前半はオリイ研究所の鈴木メイザ氏から分身ロボットオリヒメを使ったコミュニケーションの可能性や事例の報告がありました。障害者が実際に訪れることのできない展覧会を、ロボットを使うことで実際の展覧会場にいる感覚を得られるなど、今までは展覧会から排除されてきた人々の参加を考える機会となりました。後半は国立近代美術館の一條彰子さんの報告で国立近美が取り組んでいるオンライン鑑賞や、ARを使ったWeb展覧会、オンラインの可能性について話していただき、ICTによるアクセシビリティについて再考しました。

■第4回講座「障害があるアーティストの表現の広がりや自立に向けての可能性」



- (1) 日時：2021年1月23日（土）13：30～15：00
- (2) 内容／参加者数：講演／42名（欠席5名）
- (3) 講師：中津川浩章（画家、表現活動研究所ラスコー代表）
- (4) 概要報告：画家である中津川浩章さんが長年研究してきた、「障害者と呼ばれるアーティスト」が生み出した表現について、自作品や著名な作家との作品比較を通してその魅力を解説されました。障害を彼らの個性や魅力と捉え、障害者がアートを通して自立に向かう取り組みや可能性、また課題などについて100枚を超える画像で紹介し、参加者がもつ「障害者」という概念を、話しを通して問い直すとともに、同時に生み出された造形がアートかどうかという根本的な問いを参加者に投げかけ、美術の持つ力について再考させる機会になりました。

1回目 担当者：手塚

属性	会費	購入者数	収入	支出項目	支出	収益
会員	500	9	4,500	謝金	20,000	
学生・院生	500	10	5,000	Peatix手数料	4,862	
一般	1,000	17	17,000	その他		
合計		36	26,500		24,862	1,638

参加者数
27

2回目 担当者：山田

属性	会費	購入者数	収入	支出項目	支出	
会員	500	7	3,500	謝金	20,000	
学生・院生	500	1	500	Peatix手数料	1,728	
一般	1,000	5	5,000	その他		
合計		13	9,000		21,728	-12,728

参加者数
11

3回目 担当者：奥村

属性	会費	購入者数	収入	支出項目	支出	
会員	500	7	3,500	謝金	40,000	
学生・院生	500	0	0	Peatix手数料	5,748	
一般	1,000	33	33,000	その他		
合計		40	36,500		45,748	-9,248

参加者数
33

4回目 担当者：三澤

属性	会費	購入者数	収入	支出項目	支出	
会員	500	11	5,500	謝金	20,000	
学生・院生	500	9	4,500	Peatix手数料	5,726	
一般	1,000	22	22,000	その他		
合計		42	32,000		25,726	6,274

参加者数
37

全4回

属性	会費	購入者数	収入	支出項目	支出	
会員	500	34	17,000	謝金	100,000	
学生・院生	500	20	10,000	手数料	28,584	
一般	1,000	77	77,000	その他	0	
合計		131	104,000		128,584	-24,584



公益社団法人日本美術教育連合主催

■ 《造形・美術教育フォーラム2020》の記録

□演 題 図画工作科における主体的・対話的で
深い学びの視点からの授業改善

□日 時 令和2（2020）年12月20日（日）
15：00－17：00

□場 所 Zoomオンライン

□講 師 小林 ^{やすよ} 恭代 氏

□プロフィール

千葉大学教育学部小学校教員養成課程卒業。
千葉県公立小学校教諭、千葉大学教育学部附属小学校教諭、千葉県四街道市立栗山小学校教頭などを経て、令和2（2020）年4月現職。
平成29（2017）年学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者、令和元（2019）年評価規準、評価方法等の工夫改善に関する調査研究協力者。

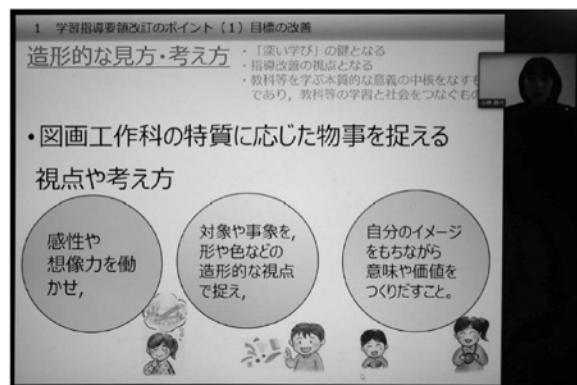
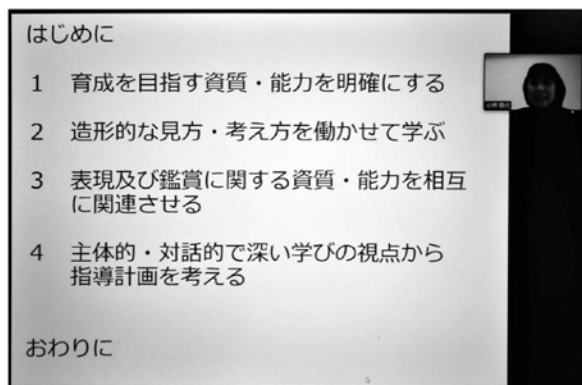
70名が参加した《造形・美術教育フォーラム2020》にて、小林恭代先生が行った講演の要点は次の通りです。

4月より教科調査官を務めております小林恭代と申します。本日は歴史ある日本美術教育連合の研修会でお話する機会をいただき心より感謝しております。

はじめに

始めに一文をご紹介します。「作品や活動をつくりだすということは、かけがえのない自分を見いだしたりつくりだしたりすること」（『小学校学習指導要領解説 図画工作編』24頁）図画工作科の授業は、単に作品や活動をつくるのが目的ではなく、作品や活動をつくりだしていく過程で自分を見いだしたり、自分をつくりだしたりすることが大切です。

平成28年12月21日、中央教育審議会答申において、「子供たちが『どのように学ぶか』という学びの質を重視した改善を図っていくこと」が示されました。そして、「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる『主体的な学び』が実現できているか」、「子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考えを手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める『対話的な学び』が実現できているか」、「習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう『深い学び』が実現できているか」という授業改善の視点が示されました。図画工作科においては「題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図ること」と示しました。本日は、この配慮事



〔写真〕前頁左：フライヤー、同中：小林恭代先生、同右：Zoom参加者。本頁左：はじめに、同右：造形的な見方・考え方。項に沿ってお話いたします〔写真左〕。

育成を目指す資質・能力を明確にする

学習指導要領の目標を見ていきます。「造形的な見方・考え方」は「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」と考えられます。「造形的な見方・考え方」は「深い学び」の鍵となり、教師にとっては指導改善の視点になります。図画工作科を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものともなります。「生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力」とは、図画工作科の学習活動において、児童がつくりだす形や色、作品などや、家庭、地域、社会で出会う形や色、作品、造形、美術などと豊かに関わる資質・能力を示しています。(略)次に、資質・能力で整理した目標が示されています。(1)は、「知識及び技能」、(2)は「思考力・判断力・表現力等」、(3)は、「学びに向かう力、人間性等」です。この三つの柱のそれぞれに「創造」を位置付けました。これは、図画工作科の学習が「造形的な創造活動」を目指していることを示しています。これらの資質・能力は、それぞれが相互に関連し合い、一体となって育まれていきます。次に内容の「A表現」(1)は発想や構想に関する項目、「A表現」(2)は技能に関する項目、「B鑑賞」(1)は鑑賞に関する項目、そして〔共通事項〕です。また、「A表現」では、造形遊びをする活動と絵や立体、工作に表す活動の指導事項の違いを明確に示しています。「2内容」は、資質・能力で整理されているので、このまま題材の目標ともなりえます。題材に即して、その内容を書き換えたり削除したりして具体的に示すことも考えられます。

造形的な見方・考え方を働かせて学ぶ

次に、「造形的な見方・考え方を働かせて学ぶ」とはどういうことか見ていきたいと思います。「感性や想像力を働かせ」は、表現及び鑑賞の活動において子供が感性や想像力を十分に働かせることを一層重視し、それを明確にするために示しています。「感性」は、様々な対象や事象を心を感じ取る働きで、知性と一体化して創造性を育む重要なものです。全ての学年の学習活動において、子供が思いを膨らませたり想像の世界を楽しんだりすることが重要です。「対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え」にある「造形的な視点」は、図画工作科ならではの視点で、育成を目指す資質・能力を支えるものです。「自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」とは、子供が心の中に像をつくりだしたり、全体的な感じ、情景や姿を思い浮かべたりしながら、自分と対象や事象との関わりを深め、自分にとっての意味や価値をつくりだすことです。それは同時に自分自身をもつくりだしているのです。

実際の授業で見えていきます。1年生で、石鹸を削って泡立てて、どんなことができるかな、という造形遊びの授業でした。ある男の子は、髪の毛や頬に泡がついても気にすることなく、できた泡を一生懸命プラスチックのカップに入れていました。この子供は、自分の感覚や行為を通して泡の感じに気付いていました。泡の手ごたえを十分に味わう中で、泡の可塑性にも気付き、「ソフトクリームみたいだな」「空に浮かぶ雲みたいだな」など、いろいろなことを呟きながら泡と向き合っていました。(略)

主体的・対話的で深い学びの視点から指導計画を考える

次に、佐賀県の先生が実践された授業です。第5学年及び第6学年で、1枚の板材を使い、生活の中で使いたいものを表しました。先生は、子供たちに生活の中の造形という視点をもたせたいと、地

域に目を向け、地元の木工家具製作会社に自ら出向いて取材をされています。その際、その会社の方が、子供の役に立つならばと、実際に使っている木材を譲って下さったそうです。厚み、木目の美しさなどがよい木材を授業で使うことができました。「学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする」という点では、授業の導入で、板を見たり触ったりして表したいことを見付ける時間を取り、地元産業の製品も見せたそうです。家では身の回りの木でできているものを子供に探そう投げかけ、子供はどんなものを表すかをじっくり考え、アイデアスケッチを描きながらどのように表すかを考えました。毎時間活動の写真を撮り、子供がアイデアスケッチと共にワークシートに貼ることで学習の流れがわかるようになっていました。次は「対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか」という視点です。ICTを活用してアイデアスケッチを拡大して示し、プレゼンテーション形式で話し合いをしています。子供同士で質問や意見が交わされ、対話を通して考えが深まりました。製作途中では助け合い、アドバイスし合う姿が見られたそうです。製作途中の作品はしまわず、常に教室に展示することで、自然と対話が生まれ、表し方の工夫につながりました。先生は子供が話し合っている場に積極的に入っていったそうです。最後に、「児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか」という視点を見ていきます。先生は、用具の安全な使い方については丁寧に指導しましたが、手順を事細かに示すのではなく、子供がこれまでの経験を生かして表現に適した方法を組み合わせ、工夫して表すことを大切にしました。そのために、様々な用具を準備してすぐに手に取れるようにしておくことや、思いに応じて材料を追加できるように多めに準備することを行っています。図画工作科では、教師が教える場面が多すぎると、子供が考えるということが少なくなってしまう。子供が考えたり気付いたりすることができるのであれば、その場面を設定することが大切です。ですから、教師はどこまで教えるかということをしっかり検討した上で授業を行うことが重要です。(略)

「対話」の場面の設定

版に表す内容の授業では、教室の真ん中を空けて材料コーナーをつくっていました。材料を選びに来る子供が、写り方や材料の手触りなどについて呟いています。すると他の子も反応しながら、材料の使い方を工夫していて、材料コーナーが情報センターのような役割を担っていました。材料を置く場所など環境設定を工夫することで、対話につながることもあるのです。(略)

これから一人に一台ずつタブレット型端末が渡るように構想が進められています。一つの使い方として、自分たちの活動を自分たちで撮ることがあります。この活動のよさは、子供がどんな視点で対象や事象を捉えているかわかることです。撮影中、他の子が画面を覗き込んでいる場面では、話はしていなくても、覗き込む子は、撮影している子がどんな視点で対象や事象を捉えているかを画面越しに知ります。また、その画像を基に面白い部分などを実際に話すこともできます。ICTを使うことが目的ではなく、資質・能力を育むための用具として活用することを忘れてはなりません。

コロナ禍においては、対話が難しいとの声も聞きます。ある学校では、対面する子供同士の飛沫が飛ばないように、間にアクリル板を設置し、互いの活動を見合うことができるようにしていました。

子供たちは情報を発信し、受け取りながら活動しています。一見黙って活動しているように見えても、向かいの子供の筆の運び方に目を向け、呟きに反応して教室内で活動しながら多くの情報を得ています。言語活動を一層重視するためには、話し合いたい場面を適切に設定します。対話を目的にするのではなく、資質・能力を育成することを常に意識して活動を設定していくのです。

児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか

5年生の「段ボールで試してつくる」授業では、ホワイトボードに、表し方の工夫が写真付きで掲示されていました。これは、前の時間に子供が試したり発見したりしたものです。子供ができることは子供が行う設定にし、目標を資質・能力で示していくことが大切です。子供は、つくりながらもっといい方法がないかなと考えたり、思ったとおりにいかないときは考え直したりして、実現したい思いを大切に活動しています。つくり、つくりかえ、つくるという学習過程を重視することは図画工作科の学びそのものであるといえます。

到来しつつあるSociety5.0時代も図画工作科の果たす役割は大きい

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」と題した中間まとめが、令和2年10月7日に中教審議より出されました。「社会

の在り方そのものがこれまでとは『非連続』と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつある。」とあります。この現代で「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている」とあります。さらに、「人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにする必要性等を指摘した」、「豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力、困難を乗り越え、ものごとを成し遂げる力」とも記されています。これらのことは、教育全体について述べられたものですが、図画工作科の果たす役割は大きいと考えます。

おわりに

資質・能力の育成のためには、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進めるとともに、学習評価の在り方も重要です。国立教育政策研究所のホームページから、『学習評価の在り方ハンドブック』、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』がダウンロードできますので、ぜひご覧ください。また、独立行政法人教職員支援機構から公開された評価に関する動画をご視聴いただければ幸いです。

最後に、最近私が強く感じたことを少しお話しいたします。これは手作りマスクの写真です。私の父がなくなりました。父は自営業で縫製の仕事をしておりまして、ミシンを使って50年という職人です。4月に母が亡くなりました。5年間病と闘い抜いた末でした。父は、一日テレビの前で座っているという生活をしばらくしていたそうです。その時にマスクが足りないから、手作りしたいという話をしたら、縫ってくれました。「すごい上手」と喜んだら、次に遊びに行った時に山ほどマスクができていました。父はテレビの前に1日座っている生活が続けていても生きている気がせず、ミシンの前に座り、次はどんな色や柄にしようか、使いやすい形は、と工夫をしているうちに段々と元気になってきたよと言っていました。先日、何枚つくったのかを聞いてみたら、千を超えていたよ、と言います。千を超えるマスクをつくりながら母のことも思い、使ってくれる人のことも思い、父はつくりながら生きていくことの意味を見いだしているように思えてなりません。つくりだすということは、本当に自分を見いだすことなのだなと感じました。子供たちが図画工作科の授業の中でつくりだすことは、本当に大切なことだと思います。そしてそれが、生涯にわたって生きて働く力につながってほしいと思います。最後に私事の話になってしまいました。私は調査官になって日も浅いですが、先生方と共に学びながら、未来の図画工作科を真剣に考えていきたいと思っています。本日まで参加くださいました先生方、また、子供の姿から謙虚に学んでいきたいと思っています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

〔監修：小林恭代〕

参加申込70名の内訳				
会 員	25	非会員	45	校種等
所在都府県				小学校 25
北海道	6	静 岡	2	中学校 7
新 潟	1	長 野	1	高 校 1
群 馬	1	福 井	1	特 支 2
栃 木	3	広 島	2	短 大 2
茨 城	2	佐 賀	3	大 学 19
埼 玉	6	長 崎	1	行 政 3
千 葉	6	大 分	1	美術館 2
東 京	24	鹿児島	1	出版社 3
神奈川	7	沖 縄	1	一 般 1
山 梨	1	(19 都道府県)		学 生 5

運 営 企 画

広 報
Zoom 設定
フライヤー
こくちーず
講師仲介

Zoom 開場	結城孝雄	14 : 30
開会の辞	長田謙一	15 : 00 - 15 : 03
理事挨拶	西村徳行	15 : 03 - 15 : 13
講師紹介	山口喜雄	15 : 13 - 15 : 15
講 演	小林恭代	15 : 15 - 16 : 45
謝 辞	橋本光明	16 : 45 - 16 : 57
司会・閉会の辞	山口喜雄	16 : 57 - 17 : 00

講師サポート 佐藤仁美
画 像 小林恭代・結城孝雄・山口喜雄
原稿おこし 畑山未央
編 集 山口喜雄

(講師・役員名／敬称略)
山口喜雄・橋本光明・長田謙一
理事会・運営委員会
大坪圭輔ほか



〔写真〕2011年5月8日（日）東京都千代田区のアルカディア市ヶ谷での第1回総会宮坂理事長挨拶および設立祝賀会

■公益法人認定10周年記念シンポジウム2021

(1) 日 時 令和3（2021）年5月16日（日）14：00－16：30予定

(2) 場 所 Zoomオンライン

〔参加費無料。氏名・都道府県名・所属記名で、どなたでも参加できます〕

詳細は4月中旬、<https://insea-in-japan.or.jp/index.html>に掲載します。

(3) 題 目 日本美術教育連合の公益社団法人化の意義とこれから

(4) 趣 旨 日本美術教育連合の公益社団法人化10周年に際し、改めてその意義を確認するとともに、
これからの10年を展望する

(5) 内 容 第1部「日本美術教育連合の公益社団法人化の意義」

宮坂 元裕 横浜国立大学名誉教授／前理事長

林 耕史 群馬大学教授／元事務局長・理事（進行）

西村 德行 東京学芸大学准教授／元事務局長・理事

第2部「日本美術教育連合のこれから」

藤井 康子 大分大学准教授／研究局運営委員

手塚 千尋 明治学院大学専任講師／事業局運営委員長代行補佐

佐藤 真帆 千葉大学准教授／国際局局員・InSEAアジア地区評議員

北川 智久 筑波大学附属小学校教諭／事務局運営委員・ニュース担当

畑山 未央 東京学芸大学大学院博士課程／事務局運営委員（進行）

(6) 運 営 山口 喜雄 元宇都宮大学教授／美術教育連携交流担当理事（司会）

橋本 光明 すみだ北斎美術館館長／美術教育連携交流担当運営委員

長田 謙一 東京都立大学客員教授／美術教育連携交流担当運営委員

■日本の美術教育を発信する「国際交流プラットフォーム（案）」作成に向けて

国際局担当理事 西 村 徳 行

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、InSEA関連でも様々な行事が延期となった。7月にスペインのバエサ（Baeza）で開催予定であったヨーロッパ地区会議が2021年7月6～9日に、11月にペルーのクスコ（Cusco）で開催予定であったラテンアメリカ地区会議が2021年11月24～27日に延期となった。（どちらもオンラインで開催予定）また2021年10月に「持続可能な開発のための芸術教育」をテーマに、中国杭州の杭州師範大学で開催予定であったInSEA世界会議も、2022年10月に開催延期となっている。その様な状況のもと、InSEAのホームページも新しい時代に向けた変化が生まれつつある。世界各地で行われるウェビナーの情報が提供され、また同時にYouTubeでもその様子が配信されている。2021年も6つの地域で、それぞれ3つのウェビナーが計画されている。なおウェビナーにはInSEA会員は無料で参加することができる。世界への敷居は随分と低くなった。オンライン技術の発展はもちろんのこと、言語に関する技術も飛躍的に発展している。ならば何を企画して何を発信するのか。またどのように国内外の交流を促すのが今後の課題となる。そのためには日本の美術教育を発信し、また世界の情報を受信するとともに、交流がおこる「場」の設定が急務である。連合もInSEA JAPANとして、関係団体にも連絡をとりながら、美術教育の人や情報が行き交う「国際交流プラットフォーム（仮）」の作成を提案したい。発信できる情報の募集や日本発のウェビナーの開催、また研究発表会などを利用した海外研究者との交流の可能性についても検討を行う。この新しい試みに向けて、会員の皆様と大いに夢を語り合いたい。

報 告

■文化庁長官表彰を受けて

監事／前理事長 宮 坂 元 裕

昨年10月ごろ文化庁関係者から「表彰を受けますか」との打診がありました。理由を尋ねますと「図画工作科教育に携わり」ということでした。思い返してみると私は50年ものあいだ図画工作の事ばかり考えてきました。そこで、表彰をお受けすることにしました。

文化庁にしてみれば、文部科学省の芸術教育部門の一部が文化庁に移管したことのPRになります。そこで私もPRしようと「公益社団法人日本美術教育連合」の肩書を付けて申請しました。表彰者の大部分は芸能関係者で、肩書がありません。心配でしたが、発表を見ると、この肩書がついていました。これは、この会の皆さんが、それぞれ活躍されている証拠だと思います。

未だに、どなたが推薦してくださったのかわかりませんが私の身边には変化がありました。例えばNDL、J-STAGE、CiNiiなど10以上の検索サイトが調べられました。これは「官庁の無謬性の確保だ」とあとで教えてくれる人がいました。

私は28歳の時から今日まで同じようなことを考え続けてきました。若い時には「…いま、学校は失敗しても復元可能な場に変容しつつある。学校教育の中に、直接体験できる美術教育があることは子供自身が自分の存在理由とその価値を見出す場をつくりだしていることになる。」と発言していました。この考えは今も変わっていません。80歳になるまで活動できたのは皆さんのおかげです。ありがとうございました。

■会員の異動（敬称略）

〈入会者〉大橋里沙子、提嶋真央、佐藤 隼、佐藤史子、川崎紀弘

〈退会者〉井戸裕子、江渡英之、中村元隆、樋口一成、三好 力

（これまで連合を支えていただき、まことにありがとうございました）

■『日本美術教育研究論集 第54号』が発刊されました。

すでに会員の皆様のもとに届けられていることと思いますが、今号の論集は21本の優れた論文を掲載することができました。加えて巻末には、「バウハウスと日本の美術教育の記録」も掲載いたしました。新型コロナウイルス感染拡大にともない、昨年度は研究計画も様々に変更せざるを得ない厳しい状況であったことと思いますが、ご執筆いただいた皆様には深く感謝申し上げます。また、会員の皆様におかれましては、本年度も積極的に研究発表・論文執筆をご計画いただき、コロナを打ち負かす勢いで、これまで以上に美術・造形研究を盛り上げていただきますようお願い申し上げます。



■2020年度会費納入、ありがとうございました

本会の運営は、公益に帰することを第一の原則として、会員皆様方の貴重な会費によって成り立っております。会員・賛助会員の皆様のご協力により、昨年度も「造形・美術教育力養成講座」「造形美術教育フォーラム2020」とそれぞれ大きな成果をあげることができました。引き続き、皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

なお、3年連続会費未納入の会員様につきましては、残念ながら「退会」の対応をとらせていただきます。何卒至急ご入金いただきますようお願い致します。また、異動等で住所が変わられた場合には、下記事務局まで、メールにてご一報いただければ幸いです。

○昨年度（2020年度）会費未納の方は、会費6,000円を下記まで納入してください。

【郵便振替】（公社）日本美術教育連合 郵便振替00170-1-86036

※ゆうちょ銀行以外の金融機関（ネット銀行を含む）からの振込先※

《銀行名》ゆうちょ銀行《支店番号》019《預金種目》当座《口座番号》0086036

○お問い合わせ先（事務局）

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20 東洋大学文学部教育学科 北澤俊之

E-mail : kitazawa@toyo.jp

■2021年度第11回定時総会 招集通知■

2021年度第11回定時総会を下記のように開催いたします。総会終了後には記念シンポジウムも行いますので、あわせて多数ご出席くださいますようお願い申し上げます。

■日時：2021年5月16日（日）午後13：00－13：50

■方法：Zoom オンライン

・ミーティングID：801 984 5772 / パスコード：a3g4slx（会員専用）

・URLは連合ホームページに掲載します。上記ミーティングID、パスコードを入力の上、入室してください。

・入室の際はニックネームでのご参加はご遠慮ください。お名前を確認の上、入室を承認させていただきます。

・入室でお困りの際は、連合公式メール（info@insea-in-japan.or.jp）までご連絡ください。

■定時総会「出欠はがき」の提出にご協力ください

総会成立の可否は、公益社団法人法によって厳密に規定されています。必ず同封の「出欠はがき」（委任状含む）を返送していただきますようお願い申し上げます。

* 総会議案は5月2日以降、連合ホームページ（https://insea-in-japan.or.jp/）に掲載します。

■公益法人認定10周年記念シンポジウム2021■

■日 時：午後14：00－16：30（総会終了後）・オンラインにて開催

■方 法：「こくちーず」による申込みが必要です。詳細は4月中旬にホームページに掲載します。

■題 目：「日本美術教育連合の公益社団法人化の意義とこれから」

■参加費：無料（会員以外の方の参加も歓迎いたします）